
脳内彼女

kAzU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

脳内彼女

【Nコード】

N0768A

【作者名】

kazu

【あらすじ】

ドラッグをためし飲みをしてみると突然女の声がして……。
という話です。

第1話：脳内彼女作成???

脳内彼女 第一章 脳内彼女制作???

暗い部屋で俺は一人でニヤニヤしている。

「な〜んか楽しいな〜、フッフ」

俺、中野 浩二なかの こうじは、一人で合法ドラッグを試し飲みしているところだ。

「いいな〜、この薬、フッフ」

自分でもきもいはずなのだが、今は何にも考えられない。

こんな自分は嫌いだ。他の人も嫌いだ。何もかも無くなってしまった方がいい。

そして、一から人類はやり直した方がいいのだ！

俺は壊れていく、このままどんどん壊れていくだろう。

「それはダメッ！」

誰かが叫んだ。誰だ？この部屋には俺しか居ないはず。

「そんなことでどうするの？」

居るのか？この部屋に？誰かが？でも、誰だ？

「私は貴方の脳内に居るのよ」

！！！？？

俺は一気に目が覚めた。

辺りを見回してみても暗い部屋に俺一人しか居ない。

「クスリのせいでおかしくなったか？」

そうだ、そうに違いない。

第一、女の声が聞こえる訳が無い。

「何してるの？そんなキョロキョロして？」

！！！？？

「はい、ファイナルアンサー？」

「・・・なに言ってるのよ？」

やっぱり聞こえる。俺の脳内から喋ってるのか？

年齢〓彼女いない歴、だから脳内に彼女を作ってしまったのか？

いや、それはあまりにも自分が可愛そうになってくる。

だから考えない、心を無にして………寝るッ！！

「おやすみ」

「だゝれが寝ていいって言った？」

やっぱり女の声が聞こえる。

澄んだ声……俺好みの声だな。

おおっと！危うく二次元オンリーの人間より危ない人間になってしまふところだった。

「俺の脳内を占領して何が楽しい？」

俺は適応能力が高い！極めて高い！！と言うことでこの訳の分からない状況に適応した。

チャンチャラチャツチャチャー。俺は今の状況に適応した。LV2になった。

「なに訳わかんないこと考えてんのよ？」

はッ。こいつは俺の考えてる事も聞けるのか？

しまった！最初の会話で気づくべきだった。

ジャンジャラジャツジャツジャ、俺はLV1に下がった。特殊能力「適応」が無くなった。

「・・・あなたまだそのネタ引きずってんの？」

!!!!

そゝか、そうだったのか。

俺は今、宇宙人と交信してるんだ。

「俺は神だ！」

俺は壊れた。

「・・・・・・ドンッ」

俺は脳内で激しい痛みを感じた。

「うッ・・・・・・なんだ？」

何か鈍器DEドン、とやられた感じがした。

やヴぁい。尋常じゃない。死ぬ・・・。

「貴方には今日一日ゆっくり休んでもらって、起きた時に説明するわ」

何言ってる。今説明が必要なんだよ・・・。

「俺は死なん・・・無敵だ・・・」

「ドンッ!、ドンッッ!!、ドンッッッ!!--!!」

俺は安らかに眠った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0768a/>

脳内彼女

2010年10月21日21時44分発行